川崎市教育委員会賞受賞作品

「夢の在り方」

中原小学校　６年　盛田　有紗

今の私にはたくさんの夢がある。何か一つに興味がわいたかと思えば、全く違うものに興味を示すのくり返しだ。それは、憧れる人が身の回りにたくさんいて、その人がすることを私もしたいと思うからかもしれない。だからもし憧れの人が変わったらまた別の夢を見るのだろう。

ころころと夢が変わる中で今、私が目指しているのは水泳選手だ。水泳選手は幼稚園生の頃からずっとなりたかったが、本気でなりたいと思ったのは小学三年生のときだ。習い事のプールのコーチの影響が一番大きいと思う。

コーチは本当に泳ぎがきれいだった。いや丁寧で美しかった。私はそんなコーチに憧れた。だから最初は水泳のコーチになろうとも思っていた。でもある日、テレビで水泳選手権があり、私はそれに出たいと強く思った。それから私は水泳の選手になりたいと思ったのだ。

小さい頃、私は水に触れるのさえ恐がったそうだ。水がある所には必ずサメがいる。サメの速さに私は圧倒されて逃げられないだろうと思っていた。そんな時、私はひらめいた。「そうだ。サメよりも速く泳げば逃げられるんだ。」こう考えはじめてから私は変わった。それからは「サメになんか負けてたまるか。」と考えるようになり、練習を一生懸命やった。そのおかげで今の私があるといっても過言ではない。世界一速い泳ぎをして世界をおどろかせるのが私の目指す水泳選手だ。

水泳が好きな理由。それは、泳いでいる時の苦しみの後にくる快感があるところだ。泳ぐ前は心臓がバクバクして息があがる。けれど泳ぎ始めたとたんに、私はさっきまでのことがうそだったかのように緊張がほどけて、心臓がゆっくり波打つ。「あぁ、楽しい。気持ちいい。」と最初の方はスイスイ順調に泳げるが、それもつかの間。１００メートルを越えてくると「うぅ。苦しい。きつい。」と楽しかったのが苦しさに変わっていく。終わりに近づいてくると、「あと少しだ。」と少し気がゆるむ。そして残り１メートル、５０センチ、１０センチ、ゴール。その途たん息がいっぱいでる。息だけじゃない。泳いでいる時の疲れ、いろいろな思いなどが一気にすべて外にでる。そのときの快感は言葉ではとても表現することは難しい。例えるなら、心に固くとめてあるねじがゆるんで体と心がフワッと軽くなるような感じだ。それがすごく気持ちよくて私は泳ぐということのとりこになっている。だから水泳が大好きなのだ。

水泳が好きな理由はもう一つある。それは家族の中でも特に父が私の泳ぎについてほめられたことだ。級が上がるたびに父が、「すごいなぁ。お姉ちゃんよりも速いかもしれないぞ。」とか、「やっぱり泳ぐの好きなんだなぁ。水泳は大得意だな。」とほめてくれた。また、私がプールにいくときに姉が、「がんばってね。有紗速いんだから。」とはげましてくれた。そういうふうに家族がほめたりはげましたりしてくれたから、私は水泳にはげんで快感を得られたのかもしれない。それらがあって私は水泳が好きなのだ。

このように私はいろいろな人に支えられたり、憧れをいだいて水泳選手という夢をもっている。

もしかしたら、来年には今とは違う夢を持ちそれを目指しているのかもしれない。私は夢って自由なものだと思う。自由だから夢をもつことができて、自由だから未来へたくさんの希望と期待をもてるのだ。

私にはたくさんの夢がある。それはいいことだと思う。だから私はひたすら前だけみて日々前進していく。たくさんの夢をもって未来へ歩いていく。それが私の夢の在り方だ。